

博物館だより

No.193



令和4年12月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

休館日 ※情報はR4.11.18現在

◆博物館「おススメ逸品レポート」
この展示（&収蔵資料）
「コトが見える、コトがッポ!!」

「コト」であつてもなくても博物館の魅力は収蔵資料が持つ多彩な価値と情報です。当館には町の豊かな歴史と文化が育んだ沢山の「逸品」資料があり、以下にその一部をご紹介します。



▲資料のうち打子装束 小型の念仏太鼓に白帷子・ダシと呼ばれる五色の背負い飾が風流調

●資料解説&メモ

去る11月1日、日本の「風流踊」がユネスコの無形遺産に登録内定とのニュースが発表されました。風流踊は華やかで人目を惹く意の古語である「風流」を冠した民俗芸能で、国内各地に伝承される盆踊りや念仏踊・太鼓踊を指します。福岡県内では豊前市の感応楽がその代表例として推薦され、同楽はこのことで「人類の遺産」として認定されることとなりました。

ただ、登録こそされなかったものの町内には同様の芸能「楽打」が4件伝承されており、その価値は規模こそ違え感応楽同様に「人類の遺産」級といつてもよいように思えます。



▲楽を御村（下伊良原）へ残らず伝授したと確認する「免許一札（部分）」 明治元（1868）年作成

●資料名

豊国楽とよくにがく資料 一括

*対象芸能はみやこ町指定無形民俗文化財 *紹介原品は当館所蔵

●データファイル

法量等：免許一点・装束等一式

制作年代：江戸時代～現代

ポイント：来歴が明瞭な宮内では最も風流踊の特徴が備わる

●公開状況：常設展示で公開中

中でも豊国楽は①発祥を京都の祇園田楽と称し、それに相応しい雅風がある②従前は生立八幡宮へ奉納し、これを下伊良原へ譲渡した旨の免許が残る といふ他に例を見ない貴重な事項を有する点が注目されます。



▲豊国楽奉納の様子 陰陽（裃の色が赤・青）二手の打子が交差演奏するのが特徴（撮影2008）

◆講座教室 催し物ガイド
12月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】
12月3日（土） 9時30分～
- 【古文書講座】
12月10日（土） 10時～
- 【古典かな講座】
12月17日（土） 9時30分～
- 【みやこ学講座】
12月24日（土） 10時～

※日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途通知します。

博物館で「楽習」始めませんか？

博物館は郷土資料と学芸員らのサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか？詳しくは博物館へお問合せ下さい！

★博物館友の会

バスハイク・歴史たんけんウォーク等の学びの旅やイベントに参加できます。

★文化遺産ボランティア養成講座

町の宝をガイド&ガイドするスタッフを募集・養成する講座です。今からでも大丈夫！

年末臨時休館のお知らせ

博物館では館内整理と燻蒸作業のため左記の期間臨時休館します。期間中の博物館や文化財業務に関することは左記へお問合せ下さい。なお、新年は1月4日（水）から開館します。

●臨時休館の期間

12月25日（日）～12月28日（水）

※29日～は通常の年末年始休館

●臨時休館中の問合せ先

☎33-1040（中央図書館）

10月の業務日誌から

10月23日（日）、当館で皆見大塚古墳VR見学会が行われました。埋め戻しのため現地をみる事ができない同古墳を、最新のVR技術で見学しようとの試みで36名の方が参加しました。迫真の映像は本物以上では？との声も聞かれました。

10月30日（日）、綾塚・橋塚古墳で豊み隊の研修が行われました。この日は「みやこ古墳日和」と題した九歴主催の見学会があり、本格ガイドを見学させてもらう予定でしたが、いつしかヘルプに入り、実践的で充実の研修になりました



▲綾塚古墳で行われた九歴の専門学芸員による解説 いつもより深い解説に参加者のうなずく回数が多かったようです



▲VR画像は現地をリアルに再現 このため段差のある箇所は平面でも思わず足を挙げてしまいます（写真は体験中の内田町長）

「わたしの町の過去・現在・未来絵画コンクール」
「小学生歴史たんけん作文コンクール」

受賞者決定!



作文コンクール「最優秀賞」受賞者
吉川寧音さん(築上町立 築城小学校5年生)



絵画コンクール「グランプリ賞」受賞者
中内葵彩さん(豊前市立 黒土小学校4年生)



絵画コンクール「グランプリ賞」受賞作品「神楽」

おめでとうございます!

例年、町内外の小・中学生の児童・生徒を対象に実施している「わたしの町の過去・現在・未来絵画コンクール」で、一〇五三点の応募作品の中から、黒土小学校4年生の中内葵彩さんが描いた「神楽」が見事、グランプリ賞に輝きました。優秀賞6点を約1ヶ月間、博物館ホールに展示し、入館者による投票を行った結果によるものです。中学3年生まで含めた作品が揃う中で、鮮やかな色彩が注目を集めた結果となりました。

また「小学生歴史たんけん作文コンクール」では、力作揃いの作文の中、築城小学校5年生の吉川寧音さんの「『延塚卯右衛門』を読んで」が見事、最優秀賞に輝きました。

作文コンクール「最優秀賞」受賞作品
「延塚卯右衛門」を読んで
築城小学校 五年 吉川 寧音

みなさんは「延塚卯右衛門」という人を知っていますか。延塚卯右衛門は、自分の命をかけて、わたしが住んでいる築上町を救ってくれた、江戸時代の筋奉行です。

わたしは、延塚奉行のことは名前を知っているぐらいでしたが、夏休み前に、町から延塚奉行のマンガをもらい、奉行のことを深く知ることができました。

天保の大ききんで、長雨・洪水がくり返し起きて、農民は年貢米も自分たちが食べる米も作ることができない、とても苦しい時期が続きました。田畑は病害虫にやられ、が死する人も多くいたそうです。そんなときでも、藩は農民から年貢を取り立て、根付料までも返させようとしていました。

日ごろから、延塚奉行は農民にやさしく接し、困っている人には食べ物や農具を分け与える人でした。でも、いくら奉行が農民を助けても、命令された年貢米を十分に納めることはできません。また、藩に年貢や根付料を減らしてほしいと願っても、藩は許してくれません。

そこで、奉行は決断します。藩の許可を取らずに、自分の判断で、根付料は返さないことでよいことにします。わたしは奉行の勇気におどろきました。農民のためであっても、江戸時代は、藩の命令にさからうということははいけない時代だからです。わたしの予想は当たりました。奉行は農民を救う代わりに、責任を取って切腹しました。大切な命をなくしたことは悲しいことですが、今、この町で農業が続き、おいしいお米が食べられるのは、延塚奉行のおかげだと思いました。

築上町では、今でも延塚奉行のことを忘れないように、毎年供養祭や武道大会を行っています。六十年以上も続いていることを考えると、いかに地域の人達が延塚奉行のことを大切に思い、そんけいしているかがわかります。

時代はちがうけれど、わたしたちのまわりには、延塚奉行が生きていたころと同じように、弱い者いじめがあります。わたしは、友達がいじめにあっていたり、自分がいじめにあたりたとき、延塚奉行のように相手に立ち向かうことができるだろうかと考えます。奉行のように、強くやさしい心をもつ人になりたいです。ゆい言葉を読むと、自分のことより、周りの人のことをゆう先し、思いやりのある人であることも伝わってきます。つい、自分のことばかり考えてしまいますが、これからは、友達や家族のことを先に考えて、行動できるように努力したいと思います。

延塚奉行は相手の立場になって考えることができる人でもありました。自分はお米をたくさん食べてもいい立場なのに、苦労している農民のことを思って、自分もそまつな食事にし、農民の気持ちを忘れないようにしました。農民やほかの役人にそんけいされる、心のやさしい奉行がこの町にいたことをほこりに思います。

わたしは今まで、こんなりっぱな人が築上町にいたことを知りませんでした。だから、マンガで知ることができてよかったです。

延塚奉行は切腹したのでお墓はないようですが、湊にある長男のお墓や小山田にある石ひをたずねて、もっと延塚奉行のことや町の歴史を知りたいなと思います。